

# 地域資源を生かした持続可能なビジネスモデルの構築

（地域サーキュラーエコノミーシステム「藤田モデル」の構築）

株式会社KCL 取締役  
合同会社AKIAGRI 代表社員 藤井 明子



# 自己紹介（弊社概要）



## 藤井 明子 (ふじい あきこ)

株式会社KCL 取締役  
合同会社AKIAGRI 代表社員

岡山大学法学部卒業後、岡山市役所に入庁  
27年間公務員経験を積む。農林水産課に配属になり農業と出会い、農業を未来に持続できる産業にしたいという想いから早期退職し独立起業。合同会社AKIAGRIを立ち上げ農業コンサルタントとして農家支援を行う。令和4年に有限会社國定農産会長の國定豪氏とバイオ炭の研究・実証機関として株式会社KCLを立ち上げる。

- ・一般社団法人日本経営士会 正会員（経営士）
- ・内閣府地方創生SDGs官民連携プラットフォーム 会員
- ・岡山県行政書士会 登録行政書士
- ・岡山県農業経営・就農支援センター 登録専門家



## 藤田地区について



# 雄町米



# 山田錦

# もみがら廃棄問題について



# 研究・調査方法



# 実施方針



## バイオ炭の定義調査

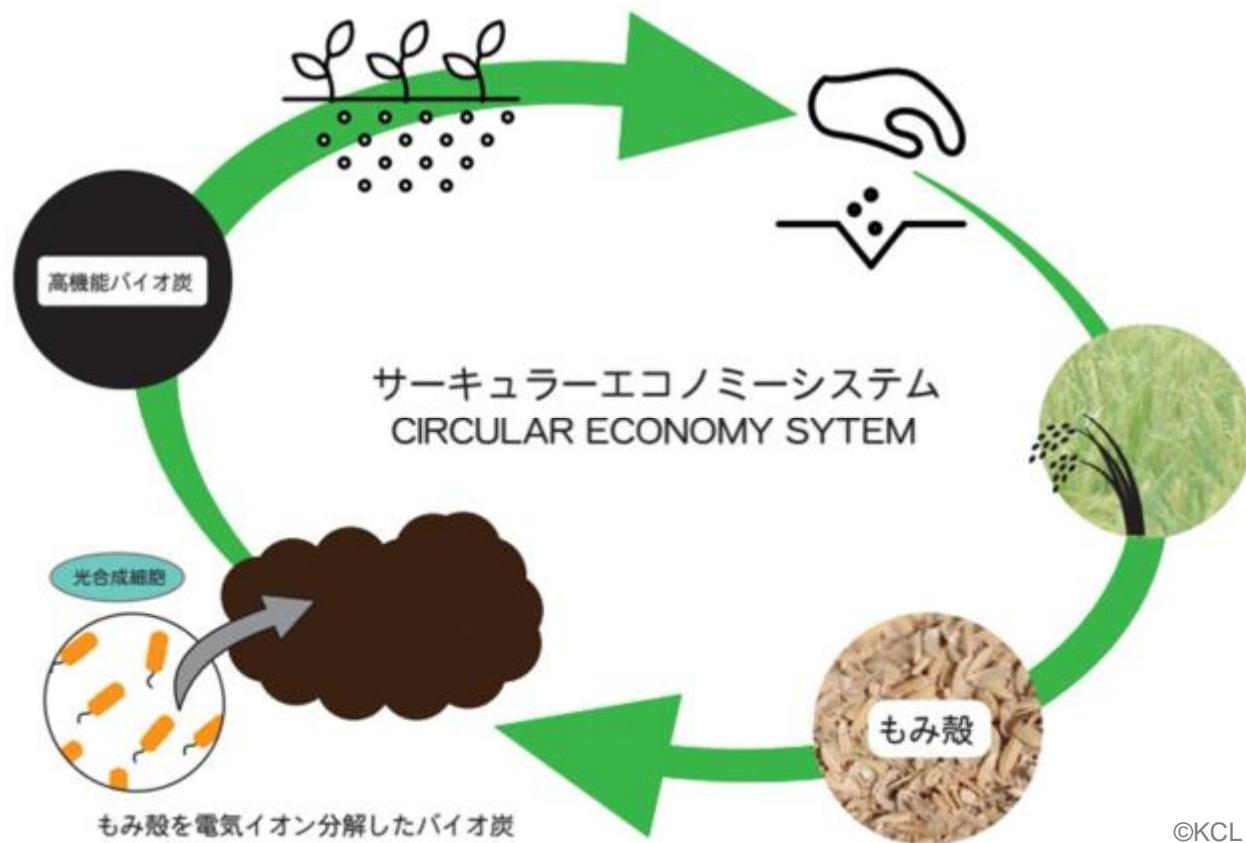
- Jクレジットにおける定義調査

## バイオ炭の生成工程に関する法規制調査

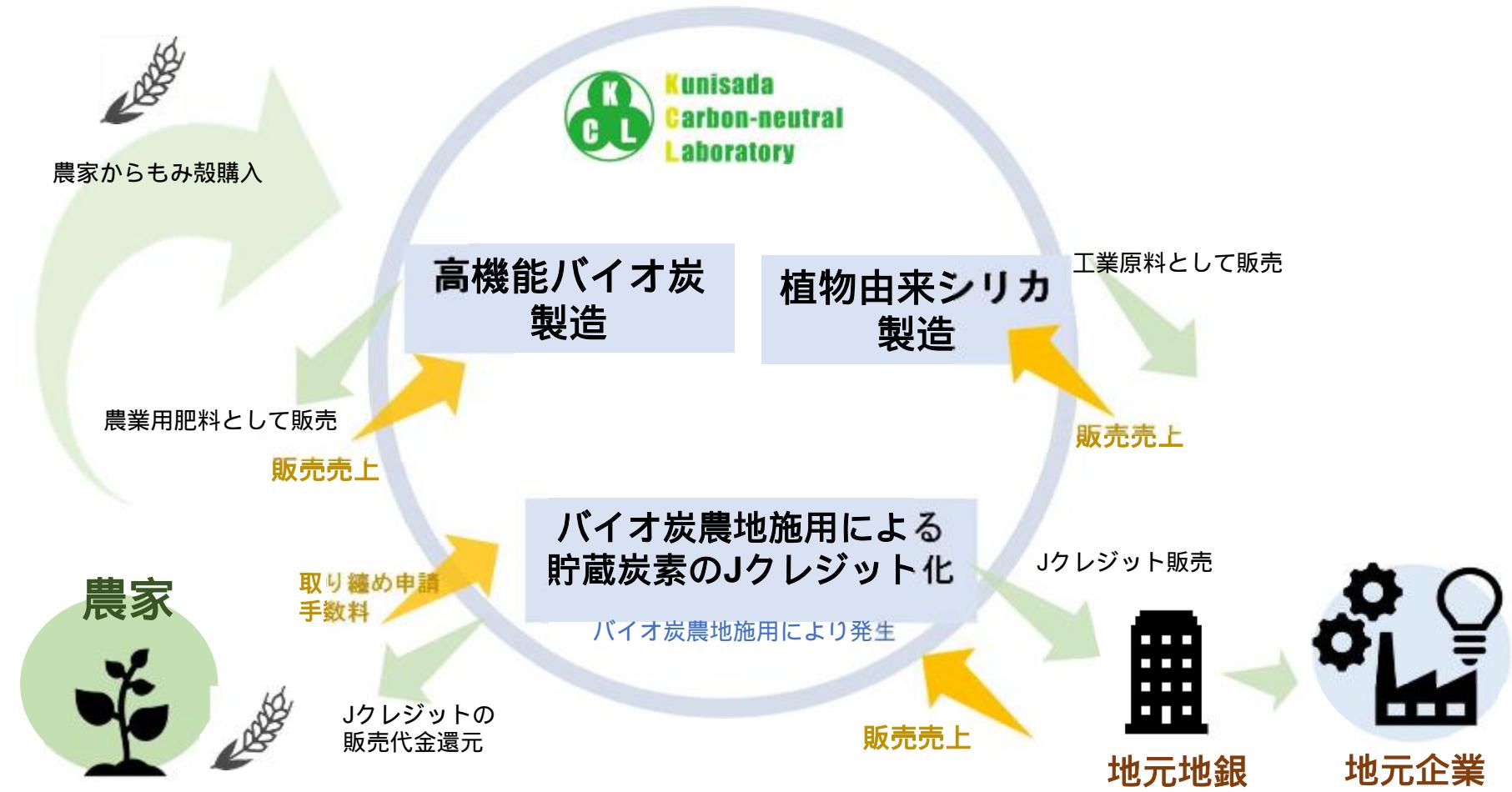
- 廃棄物に関する調査
- 肥料に関する調査

### 廃棄物を出さず資源を循環させるシステム

→ 自然への負荷を少なくして環境問題の深刻化を低減、資源不足問題の解消を図る



# ビジネスモデル「藤田モデル」の構築



資源循環型社会・脱炭素社会の実現を目指す

## 機械購入

- ・事業再構築補助金

## 人件費・資材購入

- ・岡山市地域の未来づくり推進事業

## Jクレジット登録とモニタリング実施

- ・農業分野のJークレジット創出推進事業

# 手順設定



製造機械の導入

作業員の雇用

地域の  
穀殻回収

バイオ炭の  
製造・散布

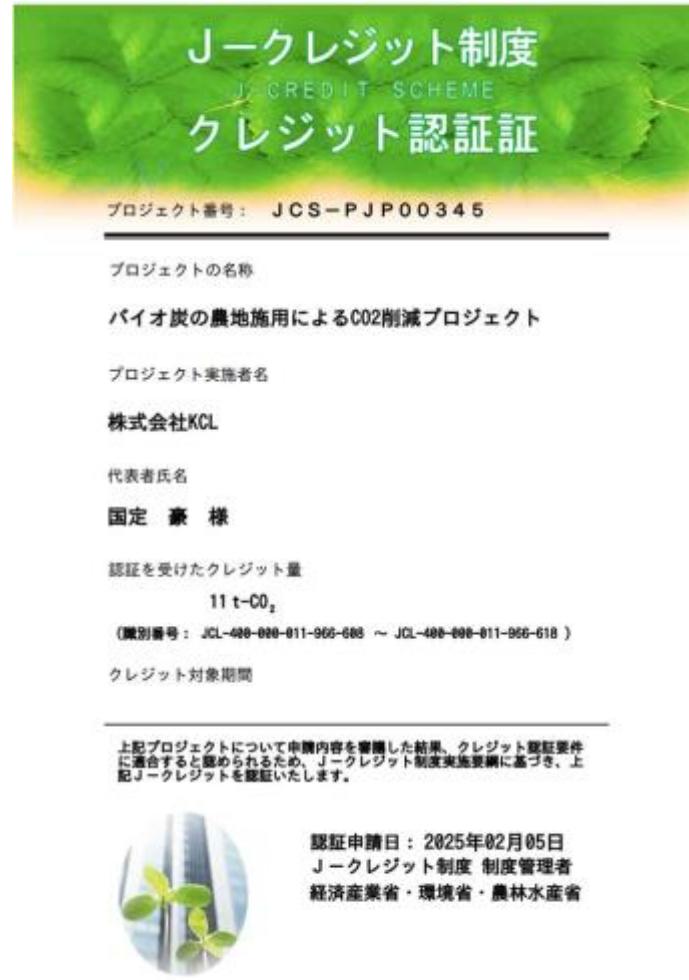
Jクレジット  
の申請

Jクレジット  
の販売

# 散布の実施



# Jクレジットの認証



# 今後の取組

## バイオ炭の最適量調査実証



【バイオ炭製造量】  
0.4t ~ 0.5t / 1ha  
(穀殼から重量換算で約1/3になる)



【もみ殼産出量】  
1.2t ~ 1.5t / 1ha



【バイオ炭散布】  
? / 1ha



農業者からの聞き取りでは  
散布をしたいけれど...

水田に散布するバイオ炭量の  
・限界値・適量値  
がわからない

導入の  
ボトルネック

### 【実証】

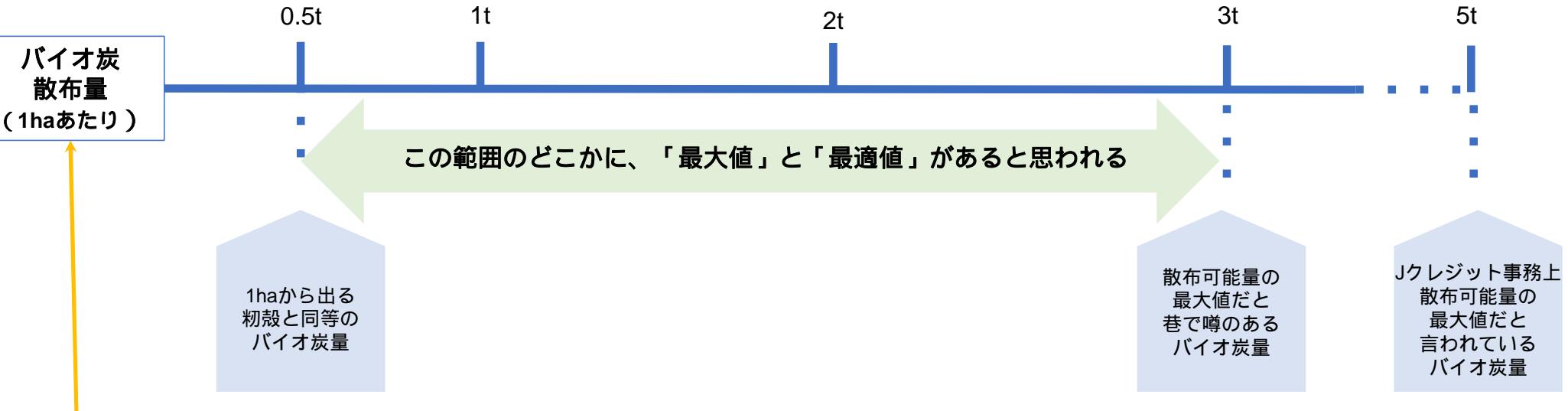
・バイオ炭散布量の適正量・最大散布  
可能量を割り出す

ボトルネック  
解消

産地に適した  
「環境に優しい栽培技術」  
の確立

# 実証内容

## バイオ炭の散布量の最適量の検証

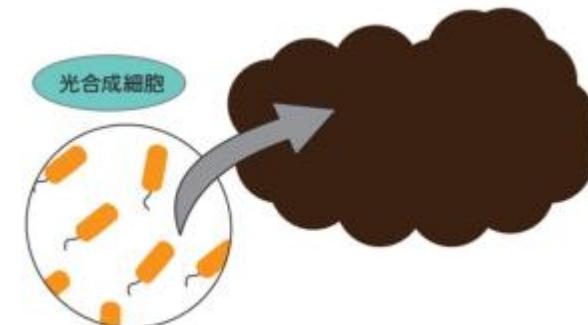


- ・「最大値」：収量や品質が地域の平均値と同等である場合でのバイオ炭最大値
- ・「最適値」：収量が地域の平均より高い収量で判断？

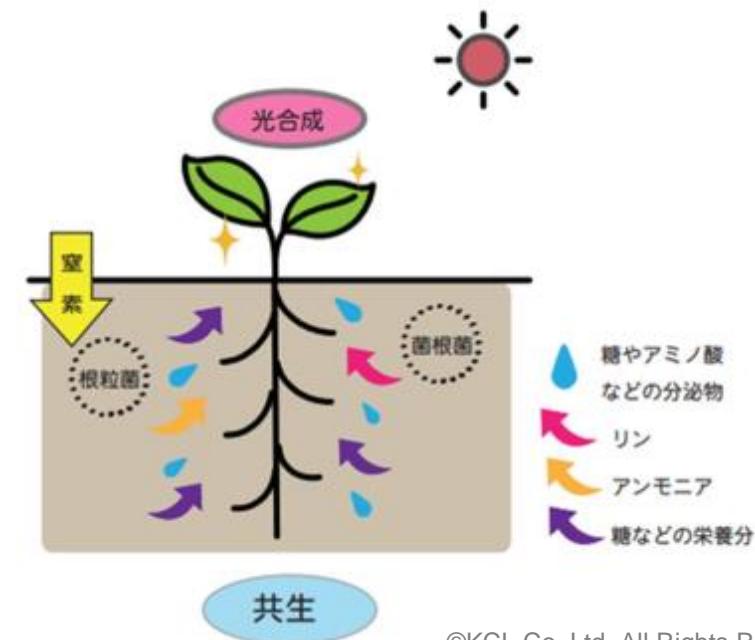
バイオ炭の「pH」値は、実際に図ってみると「pH7」なので、育苗箱に大量に使っても問題ないし何年もそうしている（県北の農家談）  
関東では「pH6」の値が出るらしい。地域の穀殻によってバイオ炭のpH値が違う？

# 次の段階へ

## バイオステミュラント



もみ殻を電気イオン分解したバイオ炭



ご清聴ありがとうございました

